

# 沖縄地方本部、 抗議のストライキ決行！

2月4日、  
給業時から就労拒否！

事前協議違反は  
確信犯ともいえる！

過去に名古屋港で  
同様な荷役を  
行なっていた！

事前協議制度は  
自港協にとっても  
大事な制度！

沖縄地区港湾は  
勇敢にたたかった！

沖縄地方本部は2月4日、自衛隊の車両を積んだ船舶が事前協議をしないまま中城湾港に入港して強行荷役を行なったとして、400名規模での無期限のストライキに入った。

この件については、1月31日から2月1日に行われた中央委員会でも報告があったが、「中城湾港は指定港でもなく、事前協議は必要ない」との一方的見解から、事前協議無視で荷役が強行されたことに断固抗議したものである。また、沖縄港湾山口議長は当日の視察を港湾管理者である県に立ち入りを申し入れたが県側から拒否された。

全国港湾はこの事態を「事前協議違反」として重く受け止め、2月4日、港運同盟と共に日本港運協会と国土交通省、

防衛省に抗議行動を行なった。

また、ストライキ決行時には、沖縄地区港湾労働組合協議会と全港湾沖縄地方本部に対し、全国各地方から力強い言葉や檄布が送られ、ともに闘う決意の聲が上がった。

2月4日、沖縄県側より事態解決のため協議の場を持ちたいとの打診があり、「副知事を中心に県と港運事業者、沖縄港湾の三者による協議会を設置し、将来に向けた具体的な協議を行なう」との回答を得、ストは一旦解除されたが、その後、再三の要請にもかかわらず、協議はおこなわれていない。

LOCAL  
北海道

## 北海道地方春闘討論集会 雪の小樽で組織拡大ティッシュ配り



2019年1月24日、北海道小樽において、19春闘北海道地方本部討論集会が開催されました。約30名の執行部・代議員に加えて、中央本部より松永書記長にもお忙しい中、来道していただき18秋年末闘争の総括及び19春闘方針案についてご提案いただきました。

集会では活発な議論がなされ、集会後の懇親会では更に熱い議論がなされ、これからのたたかきに向けた非常に有意義な集会となりました。また、今集会は午後からの開催であったため、午前中に組織拡大ティッシュ配りを小樽運河付近にて行いました。降りしきる雪の中、鼻を真っ赤にしながら2,000個のティッシュを配り団結を強めたところ。皆様も、機会がありましたら厳冬の地を体験してみたいはいかがでしょうか。(北海道地本書記次長 伊藤勇武)



Before

### 講習前の残念な写真

これでは折角のイイ男が台無し



下を向いている

**現象** 下や横を向いてしまっていて顔写真として使用できない。

**原因** 撮影時に被写体の顔や目を見ていない。

**対策** 被写体に近づき(1メートルくらいまで)顔を上げる瞬間を見極め正面から逃さず撮影する。

**現象** ピンボケでわからない。

**原因** 登壇者の後ろに窓があり強い光が入ると逆光になってしまう。また、登壇者の真上にシャンデリアがあり光が乱反射して自動ピント調整が狂う。

**対策** ストロボ(強制発光)を使用する。被写体にできるだけ近づく。撮影技量がある人であれば、露出調整等もおこなう。可能であれば照明の調整も依頼する。



1メートル手前。ここから撮る



**現象** 小さくしか写っていない。全体の風景としても顔写真としても中途半端。

**原因** 被写体に近づいていない。被写体正面の場所を確保できていない。

**対策** 顔写真として使用するには被写体から1メートルくらいまで接近して撮るのがベスト。望遠レンズは写真が暗くなりピンボケの原因となるので極力使用しない。

## 写真撮影の最大のポイントは場所取りと接近

### 中央委員会にて写真撮影実践講座を開催

1月31日、2月1日、中央委員会の開催に合わせて写真撮影技術向上のための写真撮影実践講座を開催しました。日本海地方1名、関東地方2名が実践撮影をおこないました。この写真講座は、近年、定期全国大会や各種会議・集会等で写真撮影が上手くいかず記録が残らない等の不具合が増えてきたことを受けて、写真撮影の向上に向け開催されたものです。参加者は慣れない撮影に最初は途惑ったものの、時間が経つに連れ、撮影も上手くなり、笑顔になっていきました。今後、地方・支部に戻り、写真を通しての報道の先頭に立って活躍が楽しみなところです。



### 撮影したらデジカメのモニターで確認しよう!

顔写真の大きさは、モニターの半分以上の大きさに写っていることが望ましいです。これより小さい顔写真の場合は拡大しての使用となるので手振れが目立ってしまいます。また、モニターでチェックしてピンボケや光量不足(暗い)、横や下を向いている等の不具合が確認されたら、その写真は消去し、直ちに撮影し直すようにしましょう。



このくらいの大きさで

### 顔写真の不思議

港湾労働の大会特集号などには力強く話しかけるような顔写真が掲載されていて、読者の皆さんはそれが当たり前と思われていると思います。しかし、現場の撮影の雰囲気はかなり違うものなのです。今回、撮影実践講座に参加された皆さんは口々に「原稿を読んで一度も前を向いてくれない」、「横ばかり見ている顔写真が撮影できない」と驚かれていました。そして、「5分間粘って、軌跡の顔写真1枚がやっと撮れた!ばんざ〜い」と喜んでいました。下を見てばかりでは「暗〜い」印象の写真にはなりません。大会等で撮影するレンズの向こう側には、大勢の組合員の目があるということも心がけたいものです。

After

### 実践講座の成果

何か、カッコイイ感じ!



**現象** 顔の表情もよく視線もこちらを向いている。背景の「全港湾第40回中央委員会」の文字もしっかり読める。商業紙の表紙の写真としても使用可能な出来映え。

**改善点** ストロボを発光して逆光を改善することができた。正面から近づいての撮影ができた。顔を上げてこちらを見るタイミングを待つことができた。

**現象** 顔が大きく写り、手の表情も含め写っている。背景にも考え込む姿がさりげなく写っていて深みが増している。

**改善点** 正面から近づいての撮影ができた。被写体が顔を上げてカメラの方を見上げるタイミングを待つことができた。撮影する上でのベストの場所を見極めることができた。



### 組合報道写真の意味

今回、中央委員会には160名の皆さんが参加され活発な議論がおこなわれました。会場にいらした皆さんは中央委員会の雰囲気を十分に味わうことができたと思います。しかし、全港湾の組合員は総勢1万人ほどです。中央委員会に参加できた人は全体の1.6%にしか過ぎません。まさに選ばれた人しか参加できていないのが現状です。残りの98.4%の組合員の皆さんは、写真を通して、港湾労働やブレイクタイムを通してしか中央委員会の様子を伺い知ることはできません。だからこそ、現場の雰囲気を伝える写真は重要な意味を持っているのです。委員会において熱心な議論がされていても、写真の顔が下を向いては、写真を見た人からすれば「覇気が無いなあ〜、ちゃんと意見を述べたのかい?」と疑いの眼差しを向けられることになってしまいます。そんなことにならないよう、しっかり写しましょう。組合の報道写真は運動を拡大するための重要なアイテムです。どんどん写してどんどん広げましょう。

写真撮影にとってカメラの性能や技術は2の次、3の次です。最大のポイントは「場所取り」、そして「被写体に真正面から近づいて撮影する」ことです。皆さんも、支部・分会の会合や集会など、是非是非写してみちゃば。